

平成28年11月9日

NHK広報局

11月会長定例記者会見要旨

Q. 平成28年度上半期営業業績と受信料収入の中間決算について

A. (籾井会長) 上半期の営業業績は、契約総数の増加は35.3万件、衛星契約の増加は40.7万件となった。上半期終了時点での支払率は77.8%、衛星契約割合は49.6%となった。

また中間決算では、事業収入は3,561億円で今年度予算に対して50.8%の進捗率である。このうち受信料収入は前年同時期を70億円上回る3,387億円となり、今年度予算に対し50.1%の進捗率となった。事業支出は、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック放送等の番組の充実を図る一方、効率的な事業運営等により3,298億円となり、事業収支差金は263億円となった。今後も収入の増加と効率的な業務運営を徹底していきたい。(詳細は報道資料参照)

Q. スーパーハイビジョンの海外での評価について

A. (会長) 10月15日から5日間、フランス・カンヌで開かれた世界最大級のコンテンツの見本市であるMIPCOMで、4Kと、映像の明暗の幅を拡大するHDRの技術を用いて制作したドラマ「精霊の守り人」と、8K・HDRで制作した番組「ルーブル 永遠の美」を上映し、非常に多くの方にご覧いただき、好評だった。「ルーブル 永遠の美」は、10月25日にパリのルーブル美術館でも、美術、マスコミ関係者などにご覧いただいた。「8Kによって美術作品の新たな鑑賞方法を生み出すことになるだろう」、「見慣れていると思っていた作品が、初めて見るように感じられた」などの高い評価をいただいた。引き続き4K・8Kの理解促進に努めるとともに、コンテンツの充実、設備整備を進めていく。また8Kは、美術・芸術のほか、医療、教育、サイネージなど、放送以外の様々な分野への貢献にも積極的に取り組んでいく。(詳細は報道資料参照)

Q. 平成28年度「NHK歳末たすけあい」「NHK海外たすけあい」について

A. (会長) 期間は例年通り12月1日から25日。「NHK歳末たすけあい」は、共同募金会を通じて福祉施設のほか、支援を必要とする方々のために使われる。「NHK海外たすけあい」は、日本赤十字社を通じて紛争地域や、世界各地の食糧危機や自然災害に苦しむ人々のために役立てられる。12月3日に関連番組「あなたのやさしさを2016」で国内・海外の支援の事例を紹介するほか、期間中は、来年の大河ドラマ「おんな城主 直虎」主演の柴咲コウさんや連続テレビ小説「べっぴんさん」主演の芳根京子さんなど、各界で活躍する方々がテレビスポットを通じて「たすけあい」への協力を呼びかける。みなさまの協力をお願いしたい。(詳細は報道資料参照)

Q. 受信料の値下げをめぐる報道について

A. (会長) 経営委員会に対し、来年度予算の編成にあたっての基本的な考え方を諮った。内容については審議が始まったばかりでもあり、申し上げることは差し控えたい。

余ったお金は、視聴者にお返しするということはこれまで何回も申し上げており、国会でもそう申し上げている。この考え方は今でも変わっていない。視聴者からいただいた貴重な受信料が余った場合は、お返しすることは当然だと思う。

(Q. なぜ今の時期なのか)

A. (会長) NHKの経営計画では、放送センター建替基本計画が出来たところで資金計画を見直すことになっている。それを直近の期間に反映させるということ。突飛なことをやろうとしているわけではない点には、ご理解いただきたい。